

感染対策情報

【患者ケア時の感染対策 ①褥瘡・創傷処置時の感染対策】



- ① 血液・体液・分泌物などに触れる処置であるため、標準予防策の遵守が大切である
- ② 汚染した物品や環境表面、医療従事者の手指が医療関連感染の要因になる
- ③ 個人防護具を適切に着脱することで、交差感染および職業感染の防止につながる

感染対策

処置前



- ① 物品準備後に手指衛生を行い個人防護具の着用をする
- ② 洗浄する場合には、洗浄液が飛びユニフォームや目、鼻、口へ飛散する可能性を考慮し、エプロン、マスク、ゴーグル・フェイスシールドを着用する

＜創傷処置の内容と PPE の選択＞

処置内容 \ PPE	手袋	サージカルマスク	ビニールエプロン	ゴーグル、フェイスシールド
創部の観察	○	—	—	—
ドレッシング材の交換	○	○	○	—
創部の洗浄・消毒	○	○	○	○

処置中

- ① 洗浄等の汚れた作業からドレッシング剤の貼付等の清潔な作業に移るときに手袋を外し、手指衛生を行い手袋の着用をする
- ② 処置の介助を行う「清潔者」と処置を担当する「不潔者」の役割分担を決め、交差感染を防止する
- ③ 褥瘡・創傷処置中、汚染した個人防護具着用のまま包交車から物品を取り出さない

処置後

- ① 個人防護具を脱衣後、手指衛生を行う
- ② 褥瘡・創傷処置を行った周囲環境は、環境クロスなどで清拭清掃する



包交車の管理、使用方法

- ① 包交車は共有で使用する清潔物品であるため、環境クロスを用いて定期清掃（使用前後など）を行う
- ② 清潔・不潔の混在により包交車が汚染されるリスクが高くなるため、定数表を作成し不必要な物は置かない
- ③ 滅菌済みの鋼製小物などは、滅菌包装が破損しないように保管する
- ④ 患者のケアエリア（ベッドサイド等）に持ち込んだ物品は、汚染している可能性を考慮し包交車に戻さない

「INFECTION CONTROL 30 巻 5 号」出典 <https://www.medica.co.jp/m/infectioncontrol/>